



2016年4月8日発行

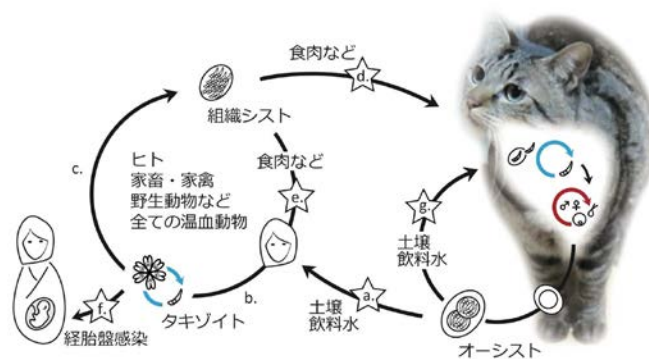
最近の猫ブームで犬より猫を飼いたい人が増えているといわれています。猫といえばトキソプラズマを思いうかべる人は少ないとは思いますが、これから妊娠したいと考えている人には注意が必要です。

トキソプラズマはネコ科動物を終宿主としヒトを含む哺乳動物や鳥類などの恒温動物を中間宿主とする寄生虫です。一度感染すると終生免疫が獲得されます。日本のトキソプラズマ抗体の陽性率は低下傾向であり妊婦では7.1%と報告されています。妊娠中のトキソプラズマの初感染は先天性トキソプラズマ症の発症に関与するため抗体陰性妊婦への感染予防は大切です。

トキソプラズマは全ての恒温動物に感染するため 生の肉類を食べたり、不十分な加熱での摂取は感染 のリスクとなります。電子レンジでの加熱も適当ではないので注意が必要です。又トキソプラズマの感染は終宿主であるネコの糞便に含まれるオーシストにより引き起こされ、特に野良猫や子猫が危険です。オーシストは消毒薬が無効ともいわれています。

猫のトキソプラズマ感染率は10%程度といわれ、感染して2週間以内の猫が排菌するので妊娠中に 新しい猫を飼い始めない、生肉をエサに与えない、外飼いしない、猫用トイレの毎日清掃（妊婦は行わない）、手洗いをする、などがすすめられています。

ネコは砂場に糞便するので砂遊びの後の手洗いの徹底も必要です。自然水で栽培した 生野菜はよく水洗いしてから食べる ようにすることも大切です。



妊娠初期トキソプラズマ抗体陰性妊婦での注意事項

- 野菜や果物はよく洗って食べる
- 食肉は十分に加熱して食べる
- ガーデニングや土や砂に触れるときは手袋をする
- 猫との接触に注意する
- 猫の糞尿処理は可能な限り避ける